

風評に関する消費者意識の実態調査(第 17 回)
報告書

令和 6 年 3 月 7 日

消費者庁 食品と放射能に関する消費者理解増進チーム

目次

I 調査の概要	3
1 調査の目的	3
2 調査の対象	3
(1) 調査手法	3
(2) 調査項目	3
(3) 調査期間	3
(4) 調査対象者	3
(5) 回収標本数	3
(6) 経年調査に関わる留意点	4
3 結果の集計	5
(1) 集計客体	5
(2) 調査客体数（問1・2）	5
(3) 基本属性に関する事項（問3・4）	7
(4) その他	8
II 本調査の結果	9
1 基本項目	9
(1) 放射性物質に関する検査の知識（問5）	9
(2) 家庭内における食品購入者の情報（問6）	10
(3) 食品産地に関する意識（問7）	10
(4) 食品の産地を気にする理由（問8）	10
(5) 特に産地に注意している食品（問9）	11
(6) 食品を買うことをためらう産地（問10）	12
(7) 風評を防止するために行うべきこと（問11）	12
(8) 放射性物質に対するリスクの捉え方（問12）	13
2 経年推移による結果	14
(1) 放射性物質に関する検査の知識（問5 グラフ）	14
(2) 食品産地に関する意識（問7 グラフ）	15
(3) 食品の産地を気にする理由（問8 グラフ）	16
(4) 特に産地に注意している食品（問9 グラフ）	17
(5) 食品を買うことをためらう産地（問10 グラフ）	19
(6) 放射性物質に対するリスクの捉え方（問12 グラフ）	20
3 クロス集計結果	21
(1) 放射性物質に関する検査の知識（問5 性別・年代・居住地域別）	21
(2) 食品の産地を気にする理由（問8 性別・年代・居住地域別）	22

(3)	食品を買うことをためらう産地（問 10 性別・年代・居住地域別）.....	23
(4)	放射性物質に対するリスクの捉え方（問 12 性別・年代・居住地域別）.....	25

I 調査の概要

1 調査の目的

被災県の農林水産物等について、消費者が買い控え行動をとっている場合の理由等を継続的に調査し、今後のリスクコミュニケーションでの説明内容を始めとする各般の風評対策及び消費者理解の増進に関する取組に役立てることを目的とする。

2 調査の対象

(1) 調査手法

インターネット調査

(2) 調査項目

食品の産地を気にする理由、放射性物質に対するリスクの捉え方、食品中の放射性物質に関する出荷制限等への意識や理解、食品中の放射性物質に関する検査の知識等。

(3) 調査期間

令和6年1月31日(水)～2月1日(木)

(4) 調査対象者

被災地域(岩手県、宮城県、福島県、茨城県)及び被災県産農林水産物の主要仕向先県等(埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、愛知県、大阪府、兵庫県)に居住する20～60代の男女

(5) 回収標本数

全ての問いに回答した5,176人である。

	性別	男性					女性					合計
	年齢	20代	30代	40代	50代	60代	20代	30代	40代	50代	60代	
	人数	(n)	(n)	(n)	(n)	(n)	(n)	(n)	(n)	(n)	(n)	
都府県名	岩手県	7	8	8	16	12	7	8	10	13	11	100
	宮城県	14	19	19	20	19	14	18	19	18	19	179
	福島県	12	14	13	15	17	10	14	13	16	20	144
	茨城県	18	26	23	24	26	19	24	22	23	25	230
	埼玉県	44	63	65	55	64	45	59	61	52	64	572
	千葉県	41	54	55	44	54	36	51	51	44	60	490
	東京都	100	126	131	92	97	95	130	120	86	103	1080
	神奈川県	62	79	87	64	70	58	76	83	61	75	715
	愛知県	50	65	66	52	57	49	60	59	49	60	567
	大阪府	52	69	75	63	74	56	72	77	60	79	677
	兵庫県	31	42	45	38	51	33	44	46	43	49	422
合計		431	565	587	483	541	422	556	561	465	565	5176

(6) 経年調査に関わる留意点

第1～16回までの調査について、調査手法、調査項目、調査対象者、回収標本数は第17回と同様の設定である。調査項目については、震災後時間の経過により、調査目的にそぐわない設問等があること等を考慮し、それまでの継続性を確保しつつ第12回調査から設問数を減じて実施している。

各回の調査時期は下のとおりである。

- ・第16回:令和5年1月20日(金)～1月27日(金)
- ・第15回:令和4年2月1日(火)～2月7日(月)
- ・第14回:令和3年1月15日(金)～1月19日(火)
- ・第13回:令和2年1月30日(木)～2月4日(火)
- ・第12回:平成31年2月7日(木)～12日(火)
- ・第11回:平成30年2月1日(木)～5日(月)
- ・第10回:平成29年8月24日(木)～28日(月)
- ・第9回:平成29年2月2日(木)～10日(金)
- ・第8回:平成28年8月17日(水)～23日(火)
- ・第7回:平成28年2月4日(木)～9日(火)
- ・第6回:平成27年8月11日(火)～17日(月)
- ・第5回:平成27年2月6日(金)～12日(木)
- ・第4回:平成26年8月25日(月)～31日(日)
- ・第3回:平成26年2月14日(金)～19日(水)
- ・第2回:平成25年8月24日(土)～28日(水)
- ・第1回:平成25年2月14日(木)～15日(金)

また、回収標本の集団設定については下のとおりである。

- ・第17回、第16回、第15回、第14回、第13回、第12回、第11回、第10回、第9回の各調査はそれぞれ異なる集団である。
- ・第9回調査の回答者のうち3,307人が第8回からの継続回答者である。
- ・第8回調査と第7回調査は異なる集団である。
- ・第7回調査の回答者のうち3,367人が第6回からの継続回答者である。
- ・第6回調査と第5回調査は異なる集団である。
- ・第5回調査の回答者のうち3,959人が第4回からの継続回答者である。
- ・第4回調査と第3回調査は異なる集団である。
- ・第3回調査の回答者のうち3,413人が第2回からの継続回答者である。
- ・第2回調査と第1回調査は異なる集団である。

3 結果の集計

(1) 集計客体

ア 調査対象数 5,176 人

イ 調査実施数 5,176 人

(2) 調査客体数 (問1・2)

ア 全体

	性別	男性					女性					合計
	年齢	20 代	30 代	40 代	50 代	60 代	20 代	30 代	40 代	50 代	60 代	
	人数	(n)	(n)	(n)	(n)	(n)	(n)	(n)	(n)	(n)	(n)	
都府県名	岩手県	7	8	8	16	12	7	8	10	13	11	100
	宮城県	14	19	19	20	19	14	18	19	18	19	179
	福島県	12	14	13	15	17	10	14	13	16	20	144
	茨城県	18	26	23	24	26	19	24	22	23	25	230
	埼玉県	44	63	65	55	64	45	59	61	52	64	572
	千葉県	41	54	55	44	54	36	51	51	44	60	490
	東京都	100	126	131	92	97	95	130	120	86	103	1080
	神奈川県	62	79	87	64	70	58	76	83	61	75	715
	愛知県	50	65	66	52	57	49	60	59	49	60	567
	大阪府	52	69	75	63	74	56	72	77	60	79	677
	兵庫県	31	42	45	38	51	33	44	46	43	49	422
合計		431	565	587	483	541	422	556	561	465	565	5176

イ 性・年齢別

性年代別	人数(n)	割合(%)
男性 20 代	431	8.3
男性 30 代	565	10.9
男性 40 代	587	11.3
男性 50 代	483	9.3
男性 60 代	541	10.5
女性 20 代	422	8.2
女性 30 代	556	10.7
女性 40 代	561	10.8
女性 50 代	465	9.0
女性 60 代	565	10.9
全体	5176	100.0

ウ 地域別

居住地別	人数(n)	割合(%)
岩手県	100	1.9
宮城県	179	3.5
福島県	144	2.8
茨城県	230	4.4
埼玉県	572	11.1
千葉県	490	9.5
東京都	1080	20.9
神奈川県	715	13.8
愛知県	567	11.0
大阪府	677	13.1
兵庫県	422	8.2
全体	5176	100.0

(3) 基本属性に関する事項 (問3・4)

ア 職業 (問3)

「問 あなたの、御職業をお答えください。」(単回答)

	項目	人数(n)	割合(%)
1	会社員(管理職以外の正社員)	1608	31.1
2	会社員(管理職)	336	6.5
3	会社役員、経営者	89	1.7
4	派遣、契約社員	305	5.9
5	公務員、非営利団体職員	223	4.3
6	教職員、講師	91	1.8
7	医療専門職(医師、看護師、療法士など)	175	3.4
8	その他専門職(弁護士、会計士、税理士など)	29	0.6
9	農林業	13	0.3
10	漁業	1	0.0
11	自営業(農林漁業以外)	219	4.2
12	SOHO(パソコンやインターネットを活用する小規模のオフィス。また、自宅をオフィスにする在宅勤務者。)	48	0.9
13	パート、アルバイト、フリーター	726	14.0
14	内職	12	0.2
15	専業主婦／主夫	620	12.0
16	大学生、大学院生、専門学校生、短大生、予備校生	115	2.2
17	無職、定年退職	480	9.3
18	その他の職業	86	1.7

イ 同居者の内訳（問4）

「問 あなた又はあなたと同居している御家族について、お答えください。」（複数回答）

	項目	人数(n)	割合(%)
1	乳幼児がいる	596	11.5
2	小学生がいる	503	9.7
3	中学生がいる	259	5.0
4	高校生又は高校生相当の年齢の方がいる	281	5.4
5	本人が 65 歳以上又は 65 歳以上の方がいる	828	16.0
6	本人が妊娠中又は妊娠中の方がいる	68	1.3
7	上記に当てはまる本人・同居者はいない	3066	59.2

(4) その他

本調査結果に掲載している数値は小数第2位で四捨五入を行っている。また、特段の断りがない限り、割合(%)は、5,176 人を分母として算出した。

Ⅱ 本調査の結果

1 基本項目

(1) 放射性物質に関する検査の知識 (問5)

「問 食品中の放射性物質の検査の情報について、あなたが知っていることをお答えください。」(複数回答)

	項目	人数(n)	割合(%)
1	基準値を超える食品が確認された市町村では、他の同一品目の食品が出荷・流通・消費されないようにしている	1045	20.2
2	食品中の放射性物質の検査は東日本の17都県を中心に実施されている	482	9.3
3	原子力災害対策本部のガイドラインに従い、地方公共団体において検査計画が作成され、検査が行われている	732	14.1
4	検査計画に従い地方公共団体が行う検査結果は、厚生労働省のウェブサイトで公表されている	609	11.8
5	放射性セシウムスクリーニング法による検査では、検査結果がスクリーニングレベル(一般的には基準値の1/2(50ベクレル/kg))を超えたものについては、さらに、精度を上げて再検査(ゲルマニウム半導体検出器を用いた確定検査)を行っている	348	6.7
6	地方公共団体が定めた検査計画では、農地の汚染やこれまでの作物の検査結果等が反映されている	597	11.5
7	検査が行われていることを知らない	3184	61.5
8	その他	65	1.3

(2) 家庭内における食品購入者の情報 (問6)

「問 あなたの御家庭では、主に食品を買っているのはどなたですか。」(単回答)

	項目	人数(n)	割合(%)
1	あなた御自身	3317	64.1
2	あなた以外の御家族	1859	35.9

(3) 食品産地に関する意識 (問7)

「問 あなたは、普段の買物で食品を購入する際に、その食品がどこで生産されたかを気にされますか。」(単回答)

	項目	人数(n)	割合(%)
1	気にする	876	16.9
2	どちらかといえば気にする	2080	40.2
3	どちらかといえば気にしない	1245	24.1
4	気にしない	782	15.1
5	分からない(自分で食品を購入しない方)	193	3.7

(4) 食品の産地を気にする理由 (問8)

「問 普段の買物で食品の生産地を「気にする」「どちらかといえば気にする」と回答された方にお聞きます。あなたが、その食品がどこで生産されたかを気にされるのは、どのような理由からでしょうか。」(複数回答)

	項目	人数(n)	割合(%)
1	産地によって品質(味)が異なるから	1305	25.2
2	産地によって鮮度が異なるから	928	17.9
3	産地によって価格が異なるから	886	17.1
4	ブランド価値のある特産品を買いたいから	323	6.2
5	自分が住んでいる地域など、特定の地域の食品を買いたいから	817	15.8
6	食品を買うことにより、その食品の生産地を応援したいから	656	12.7
7	放射性物質の含まれていない食品を買いたいから	483	9.3
8	その他	149	2.9

(5) 特に産地に注意している食品 (問9)

「問 普段の買物で食品の生産地を気にする理由として「放射性物質の含まれていない食品を買いたいから」と回答された方にお聞きします。あなたが、特に産地に注意している食品を次の選択肢から選んでください。」(複数回答)

	項目	人数(n)	割合(%)
1	米	281	5.4
2	野菜	352	6.8
3	果物	240	4.6
4	卵	159	3.1
5	牛乳	179	3.5
6	牛肉	236	4.6
7	豚肉	227	4.4
8	鶏肉	220	4.3
9	鮮魚介類	287	5.5
10	きのこ類	163	3.1
11	茶	111	2.1
12	清涼飲料類・酒類	50	1.0
13	加工食品(惣菜・弁当・冷凍食品・お菓子類 など)	114	2.2
14	その他の食品	3	0.1

(6) 食品を買うことをためらう産地 (問 10)

「問 普段の買物で食品の生産地を気にする理由として「放射性物質の含まれていない食品を買いたいから」と回答された方にお聞きます。あなたが、食品を買うことをためらう産地を次の中から選んでください。」(複数回答)

	項目	人数(n)	割合(%)
1	福島県	254	4.9
2	被災地を中心とした東北 (※岩手県、宮城県、福島県)	174	3.4
3	東北全域 (※青森県、岩手県、宮城県、秋田県、山形県、福島県)	65	1.3
4	北関東 (※茨城県、栃木県、群馬県)	58	1.1
5	東日本全域 (※青森県、岩手県、宮城県、秋田県、山形県、福島県、茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、山梨県、長野県、新潟県、静岡県)	68	1.3
6	その他	75	1.4

(7) 風評を防止するために行うべきこと (問 11)

「あなたは、風評被害を防止し、売られている食品を安心して食べるために、どのようなことが行われるとよいと思いますか。」(複数回答)

	項目	人数(n)	割合(%)
1	海外と比較し、厳しい安全対策を実施している旨の内外への情報提供	1383	26.7
2	食品に含まれる放射性物質に関する科学的な説明	1584	30.6
3	それぞれの食品の安全に関する情報提供(検査結果など)	2375	45.9
4	それぞれの食品の産地や製品の魅力に関する情報提供	1537	29.7
5	産品に触れる機会の増加(実際に購入できる機会の増加)	1043	20.2
6	マスメディア等を通じた個別の食品や食品全般についての PR	1142	22.1
7	何をやっても安心できるとは思わない	968	18.7
8	その他	73	1.4

(8) 放射性物質に対するリスクの捉え方 (問 12)

「あなたは、放射線による健康影響が確認できないほど低い線量のリスクをどう受け止めますか。」(単回答)

	項目	人数(n)	割合(%)
1	基準値以内であっても少しでも発がんリスクが高まる可能性があり、受け入れられない	573	11.1
2	基準値以内であれば、他の発がん要因(喫煙、過度の飲酒、塩分摂取など)と比べてもリスクは低く、現在の検査体制の下で流通している食品であれば受け入れられる	1864	36.0
3	放射性物質以外の要因でもがんは発生するのだから、殊更気にしない	1124	21.7
4	十分な情報がないため、リスクを考えられない	1572	30.4
5	その他	43	0.8

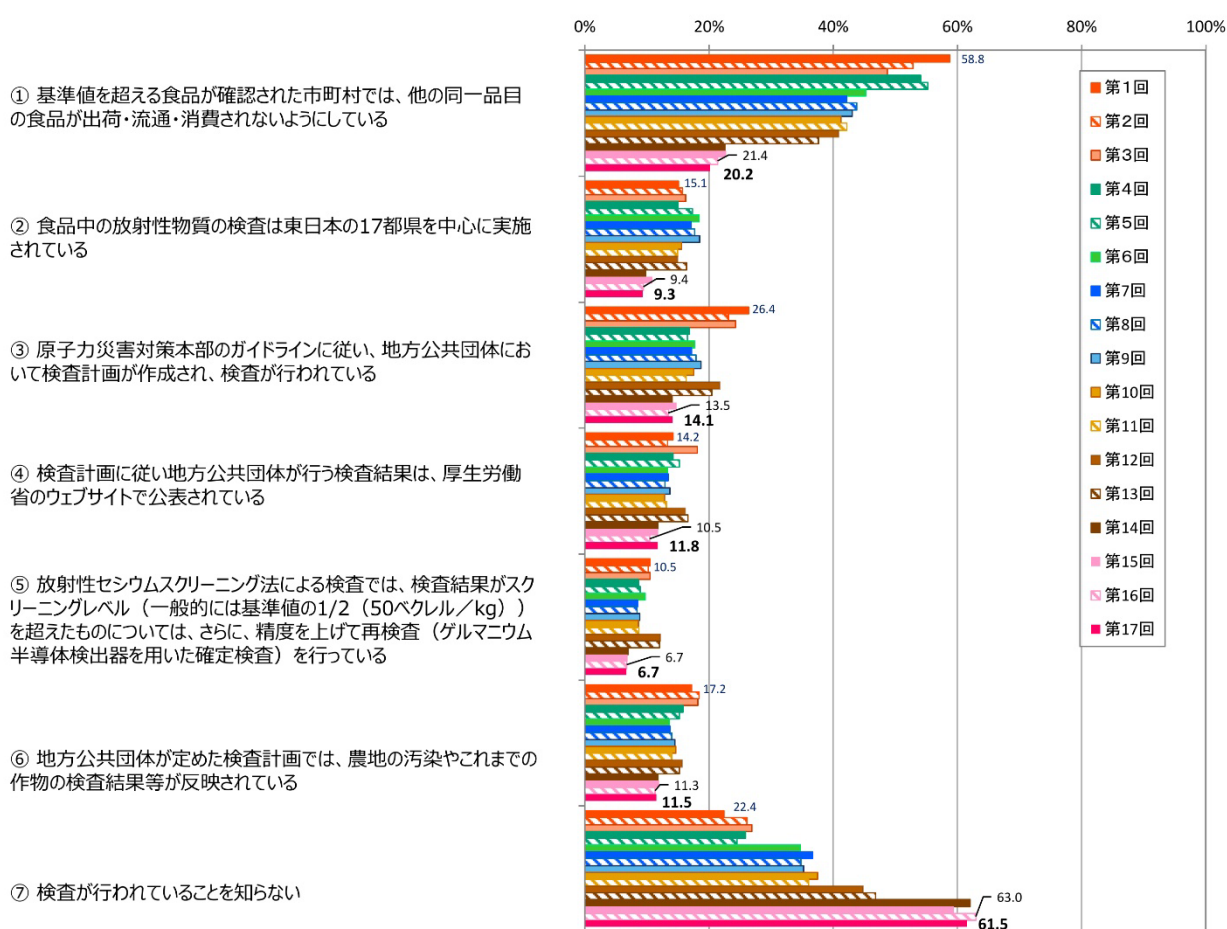
2 経年推移による結果

(1) 放射性物質に関する検査の知識 (問5 グラフ)

「問 食品の放射性物質の検査の情報について、あなたが知っていることをお答えください。」(複数回答)

食品中の放射性物質の検査について、6つの項目のうち3つの項目で知っている
と回答した割合が昨年度より増加し、3つの項目で同じか減少している。

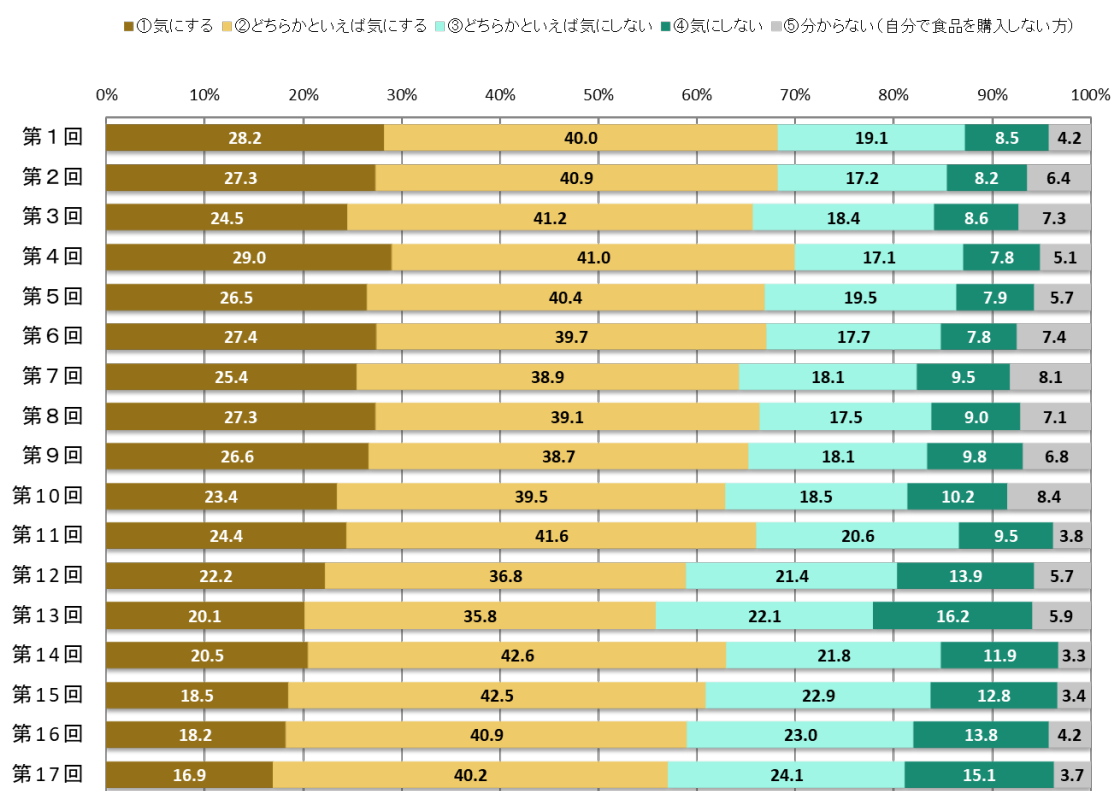
「⑦検査が行われていることを知らない」との回答は減少している。



(2) 食品産地に関する意識（問7 グラフ）

「問 あなたは、普段の買物で食品を購入する際に、その食品がどこで生産されたかを気にされますか。」(単回答)

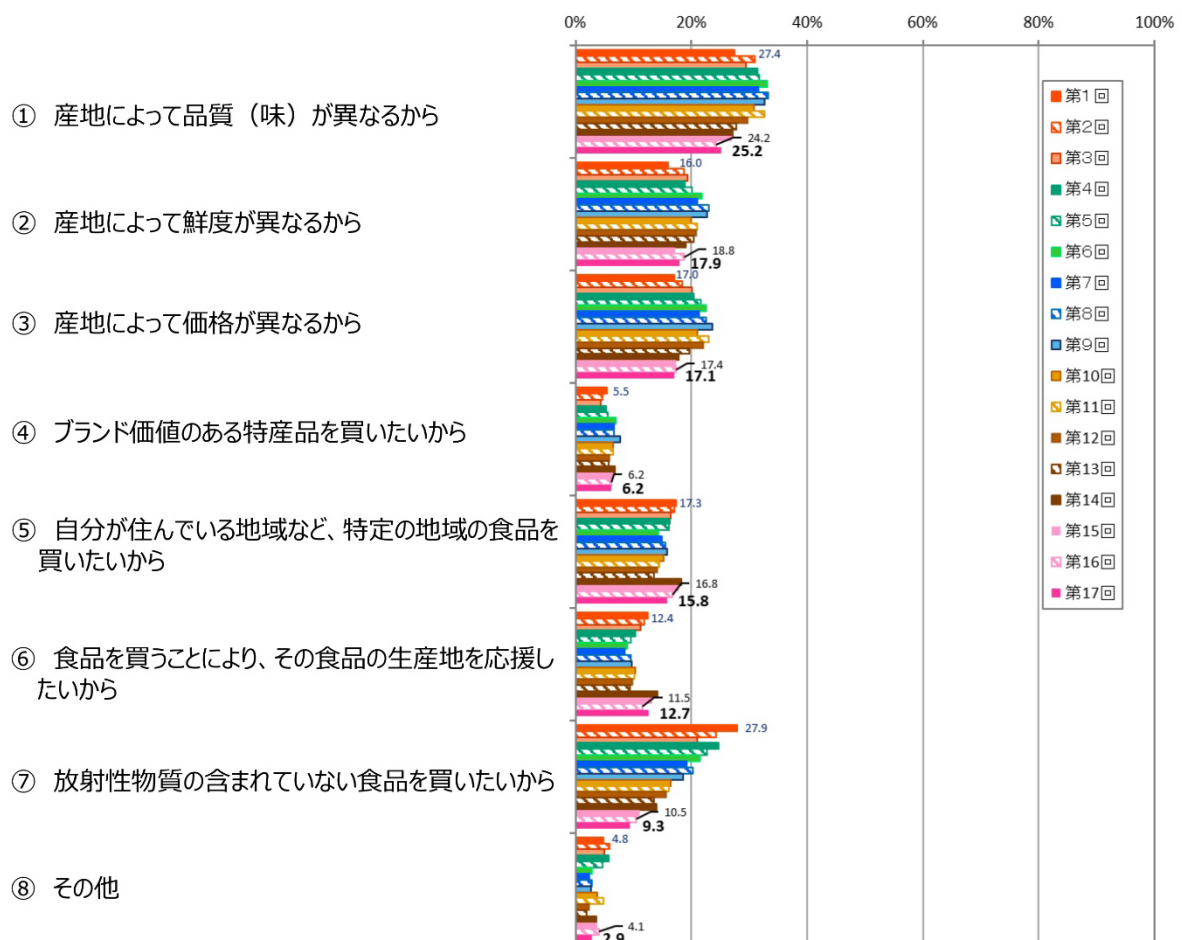
食品購入時に、食品の産地を「①気にする」と「②どちらかといえば気にする」との回答者の合計は第 16 回と比較して減少している。一方、「③どちらかといえば気にしない」と「④気にしない」との合計は増加している。



(3) 食品の産地を気にする理由 (問8 グラフ)

「問 普段の買物で食品の生産地を「気にする(どちらかといえば気にする)」と回答された方にお聞きします。あなたが、その食品がどこで生産されたかを気にされるのは、どのような理由からでしょうか。」(複数回答)

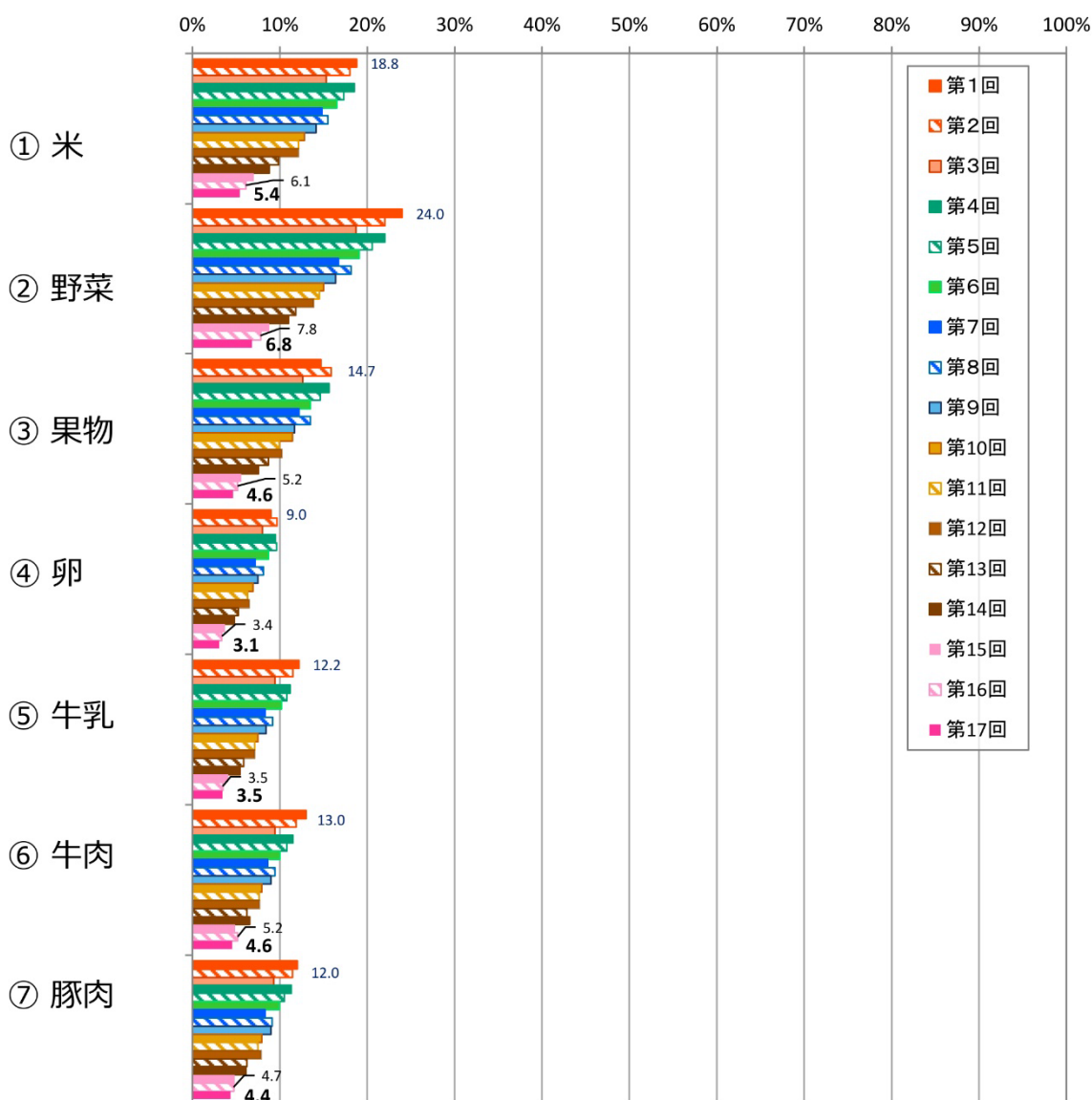
問7で、産地を「①気にする」又は「②どちらかといえば気にする」と回答した 2,956 人(回答者全体のうちの 57.1%)について、その理由を尋ねたところ、「⑦放射性物質の含まれていない食品を買いたいから」と回答した人は、第 1 回から減少傾向にあり、今回が最小となった。その他の項目では、大きな変化は見られなかった。



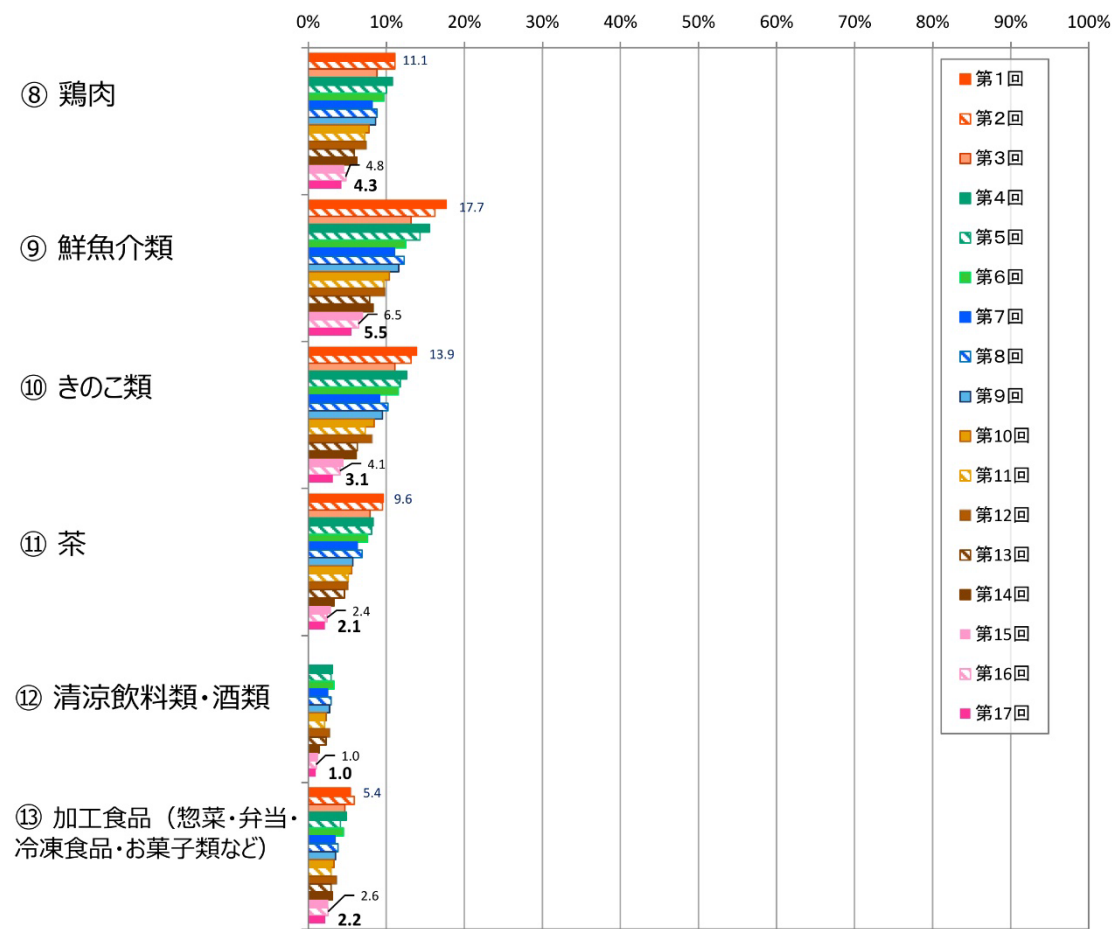
(4) 特に産地に注意している食品 (問9 グラフ)

「問 普段の買物で食品の生産地を気にする理由として「放射性物質の含まれていない食品を買いたいから」と回答された方にお聞きします。あなたが、特に産地に注意している食品を次の選択肢から選んでください。」(複数回答)

問8で、「⑦放射性物質の含まれていない食品を買いたいから」と回答した 483 人(回答者全体のうちの 9.3%)に対して、特に産地に注意している食品について尋ねたところ、減少傾向が継続している。



(グラフは次ページに続く)

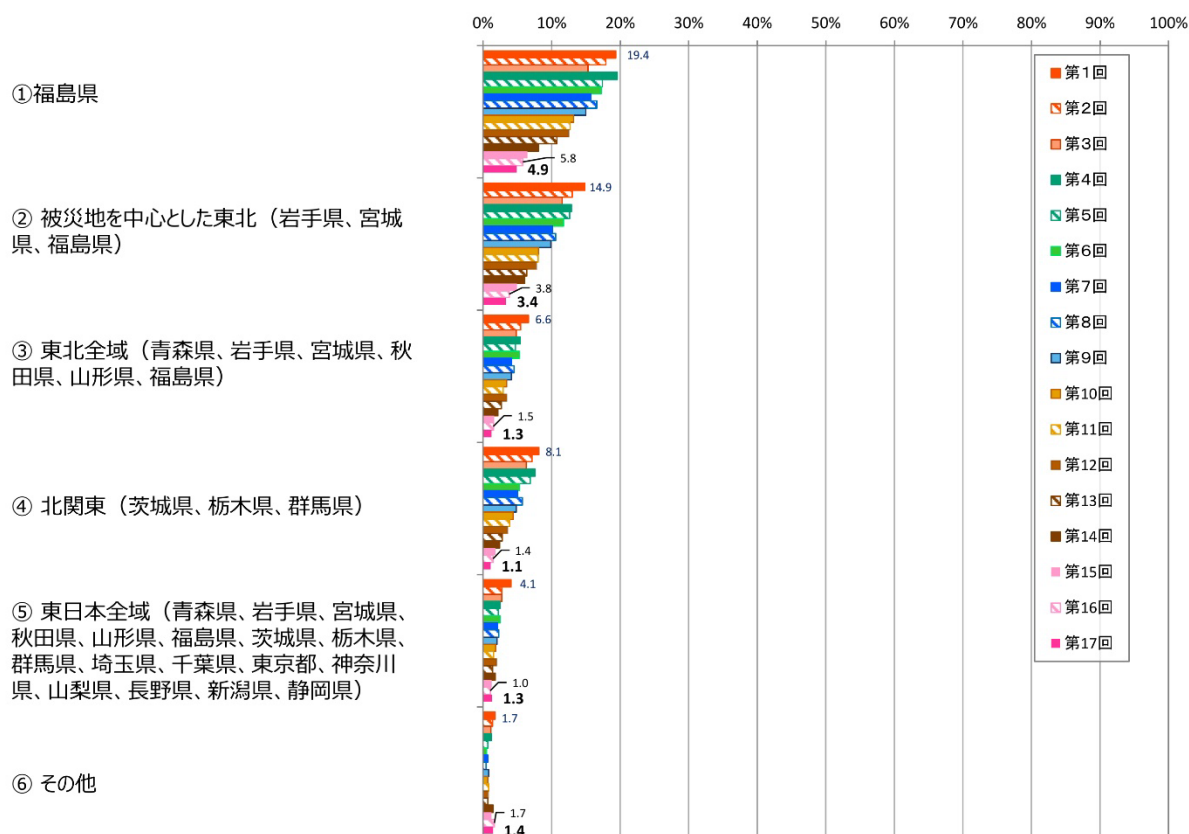


(5) 食品を買うことをためらう産地 (問 10 グラフ)

「問 普段の買物で食品の生産地を気にする理由として「放射性物質の含まれていない食品を買いたいから」と回答された方にお聞きます。あなたが、食品を買うことをためらう産地を次の中から選んでください。」(複数回答)

問8で、「⑦放射性物質の含まれていない食品を買いたいから」と回答した 483 人(回答者全体のうちの 9.3%)に対して、購入をためらう産地を尋ねたところ、「⑤東日本全域」以外の全ての地域が減少傾向にある。

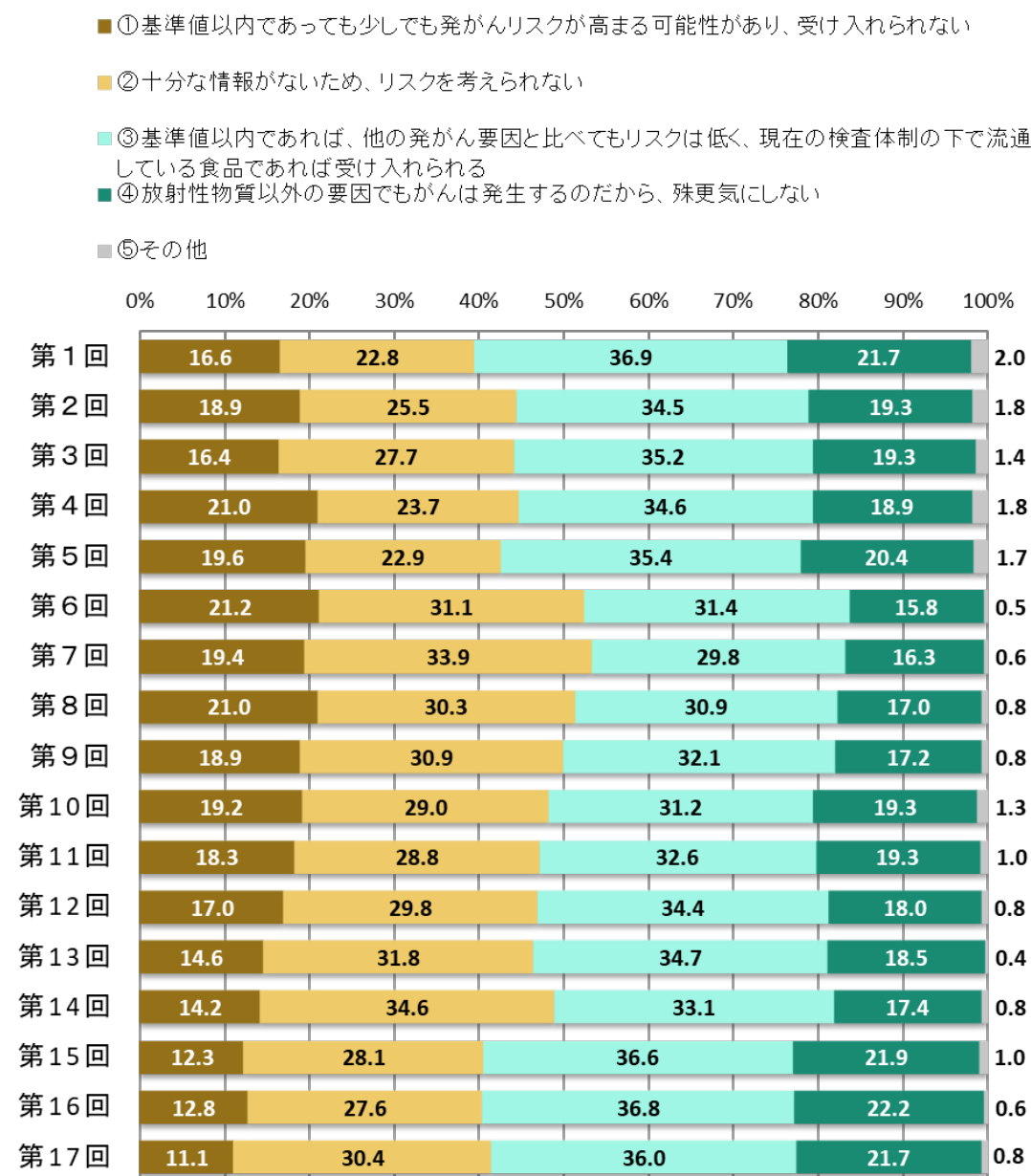
このうち、「①福島県」と回答した人の割合は、回答者全体に対して、これまでで最も小さく(第1回 19.4%→第 16 回 5.8%→第 17 回 4.9%)なった。



(6) 放射性物質に対するリスクの捉え方 (問 12 グラフ)

「問 あなたは、放射線による健康影響が確認できないほど低い線量のリスクをどう受け止めますか。」(単回答)

低線量の放射線リスクの受け止め方については、「①基準値以内であっても少しでも発がんリスクが高まる可能性があり、受け入れられない」で回答した人の割合は、これまでで最小となった。



3 クロス集計結果

(1) 放射性物質に関する検査の知識（問5 性別・年代・居住地域別）

「検査が行われていることを知らない」と回答した人の割合は、男性の方が女性よりもやや大きく、年代別では50代、60代が他の年代に比べて小さくなっている。また、居住地域別では福島県が最も小さく、兵庫県が最も大きかった。

		検査が行われていることを知らない	検査が行われていることを知らない	検査が行われていることを知らない	検査が行われていることを知らない	検査が行われていることを知らない	検査が行われていることを知らない	検査が行われていることを知らない	検査が行われていることを知らない
	n	割合	割合	割合	割合	割合	割合	割合	割合
全体	5176	1045	482	732	609	348	597	3184	65
	100.0	20.2	9.3	14.1	11.8	6.7	11.5	61.5	1.3
性別	男性	2607	493	264	368	303	200	314	1655
		100.0	18.9	10.1	14.1	11.6	7.7	12.0	63.5
性別	女性	2569	552	218	364	306	148	283	1529
		100.0	21.5	8.5	14.2	11.9	5.8	11.0	59.5
年代	20代	853	125	70	101	90	58	88	587
		100.0	14.7	8.2	11.8	10.6	6.8	10.3	68.8
	30代	1121	185	94	150	125	72	109	743
		100.0	16.5	8.4	13.4	11.2	6.4	9.7	66.3
	40代	1148	229	107	153	135	73	125	711
		100.0	19.9	9.3	13.3	11.8	6.4	10.9	61.9
	50代	948	224	81	132	120	62	121	547
		100.0	23.6	8.5	13.9	12.7	6.5	12.8	57.7
	60代	1106	282	130	196	139	83	154	596
		100.0	25.5	11.8	17.7	12.6	7.5	13.9	53.9
居住地	岩手県	100	25	8	10	12	3	12	57
		100.0	25.0	8.0	10.0	12.0	3.0	12.0	57.0
	宮城県	179	51	18	31	23	13	28	92
		100.0	28.5	10.1	17.3	12.8	7.3	15.6	51.4
	福島県	144	57	28	43	37	27	37	47
		100.0	39.6	19.4	29.9	25.7	18.8	25.7	32.6
	茨城県	230	59	34	45	36	19	39	127
		100.0	25.7	14.8	19.6	15.7	8.3	17.0	55.2
	埼玉県	572	100	42	63	56	29	56	374
		100.0	17.5	7.3	11.0	9.8	5.1	9.8	65.4
	千葉県	490	114	48	70	70	33	67	283
		100.0	23.3	9.8	14.3	14.3	6.7	13.7	57.8
	東京都	1080	215	106	156	131	66	128	638
		100.0	19.9	9.8	14.4	12.1	6.1	11.9	59.1
	神奈川県	715	134	62	120	85	42	75	442
		100.0	18.7	8.7	16.8	11.9	5.9	10.5	61.8
	愛知県	567	96	45	63	52	36	49	385
		100.0	16.9	7.9	11.1	9.2	6.3	8.6	67.9
	大阪府	677	121	62	82	66	46	67	449
		100.0	17.9	9.2	12.1	9.7	6.8	9.9	66.3
	兵庫県	422	73	29	49	41	34	39	290
		100.0	17.3	6.9	11.6	9.7	8.1	9.2	68.7

(2) 食品の産地を気にする理由 (問8 性別・年代・居住地域別)

食品の産地を気にする理由として、「放射性物質の含まれていない食品を買いたい」と回答した人の割合は、男性より女性の方がやや高かった。また、年代別では20代が最も小さく、40代が最も大きかった。居住地域別では岩手県が最も小さく、兵庫県が最も大きかった。

		n	(産地によって品質が異なるから)	産地によって鮮度が異なるから	産地によって価格が異なるから	ブランド価値のある特産品を買いたいから	自分が住んでいる地域の地産地消など、特定の地域の食品を買いたいから	食品を買うことに伴って、その食品の生産地を応援したいから	放射性物質の含まれていない食品を買いたいから	その他
全体		5176 100.0	1305 25.2	928 17.9	886 17.1	323 6.2	817 15.8	656 12.7	483 9.3	149 2.9
性別	男性	2607 100.0	590 22.6	414 15.9	415 15.9	180 6.9	340 13.0	280 10.7	216 8.3	63 2.4
	女性	2569 100.0	715 27.8	514 20.0	471 18.3	143 5.6	477 18.6	376 14.6	267 10.4	86 3.3
年代	20代	853 100.0	154 18.1	137 16.1	157 18.4	54 6.3	105 12.3	64 7.5	65 7.6	11 1.3
	30代	1121 100.0	287 25.6	209 18.6	223 19.9	71 6.3	148 13.2	140 12.5	94 8.4	17 1.5
	40代	1148 100.0	283 24.7	196 17.1	193 16.8	84 7.3	179 15.6	139 12.1	129 11.2	27 2.4
	50代	948 100.0	257 27.1	171 18.0	162 17.1	46 4.9	174 18.4	147 15.5	100 10.5	41 4.3
	60代	1106 100.0	324 29.3	215 19.4	151 13.7	68 6.1	211 19.1	166 15.0	95 8.6	53 4.8
居住地	岩手県	100 100.0	18 18.0	19 19.0	17 17.0	3 3.0	21 21.0	11 11.0	3 3.0	1 1.0
	宮城県	179 100.0	32 17.9	24 13.4	34 19.0	6 3.4	31 17.3	20 11.2	16 8.9	2 1.1
	福島県	144 100.0	26 18.1	21 14.6	15 10.4	5 3.5	26 18.1	17 11.8	9 6.3	2 1.4
	茨城県	230 100.0	52 22.6	47 20.4	39 17.0	14 6.1	57 24.8	39 17.0	24 10.4	11 4.8
	埼玉県	572 100.0	135 23.6	96 16.8	81 14.2	34 5.9	106 18.5	73 12.8	46 8.0	17 3.0
	千葉県	490 100.0	125 25.5	79 16.1	73 14.9	35 7.1	93 19.0	73 14.9	46 9.4	16 3.3
	東京都	1080 100.0	311 28.8	200 18.5	203 18.8	71 6.6	119 11.0	129 11.9	116 10.7	32 3.0
	神奈川県	715 100.0	183 25.6	108 15.1	132 18.5	39 5.5	112 15.7	99 13.8	72 10.1	19 2.7
	愛知県	567 100.0	130 22.9	112 19.8	105 18.5	39 6.9	82 14.5	61 10.8	46 8.1	13 2.3
	大阪府	677 100.0	172 25.4	121 17.9	116 17.1	53 7.8	83 12.3	85 12.6	58 8.6	22 3.2
	兵庫県	422 100.0	121 28.7	101 23.9	71 16.8	24 5.7	87 20.6	49 11.6	47 11.1	14 3.3

※問8の回答者数は、問7で、普段の買物で食品の生産地を「気にする」「どちらかといえば気にする」と回答した 2,956 名

(3) 食品を買うことをためらう産地 (問 10 性別・年代・居住地域別)

「東北全域」を除くいずれの産地でも男性より女性の方が、食品を買うことをためらう割合が大きい傾向がある。年代別では20代と60代は他の年代より小さい傾向がある。

			福島県	被災地を中心とした東北 （※岩手県、宮城県、福島県）	東北全域（※青森県、岩手県、宮城県、秋田県、山形県、福島県）	北関東（※茨城県、栃木県、群馬県）	東日本全域（※青森県、岩手県、宮城県、秋田県、山形県、福島県、茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、新潟県、静岡県）	その他
		n						n
全体		5176 100.0	254 4.9	174 3.4	65 1.3	58 1.1	68 1.3	75 1.4
性別	男性	2607 100.0	116 4.4	75 2.9	33 1.3	25 1.0	30 1.2	31 1.2
	女性	2569 100.0	138 5.4	99 3.9	32 1.2	33 1.3	38 1.5	44 1.7
年代	20代	853 100.0	24 2.8	22 2.6	11 1.3	4 0.5	15 1.8	12 1.4
	30代	1121 100.0	50 4.5	43 3.8	14 1.2	14 1.2	19 1.7	9 0.8
	40代	1148 100.0	75 6.5	45 3.9	15 1.3	12 1.0	15 1.3	17 1.5
	50代	948 100.0	58 6.1	33 3.5	13 1.4	14 1.5	12 1.3	19 2.0
	60代	1106 100.0	47 4.2	31 2.8	12 1.1	14 1.3	7 0.6	18 1.6
	居住地	岩手県	100 100.0	2 2.0	0 0.0	1 1.0	0 0.0	0 0.0
宮城県		179 100.0	10 5.6	2 1.1	1 0.6	1 0.6	4 2.2	0 0.0
福島県		144 100.0	5 3.5	2 1.4	1 0.7	3 2.1	1 0.7	2 1.4
茨城県		230 100.0	11 4.8	6 2.6	2 0.9	2 0.9	3 1.3	5 2.2
埼玉県		572 100.0	35 6.1	15 2.6	4 0.7	4 0.7	4 0.7	7 1.2
千葉県		490 100.0	23 4.7	14 2.9	6 1.2	3 0.6	5 1.0	10 2.0
東京都		1080 100.0	62 5.7	51 4.7	16 1.5	21 1.9	19 1.8	15 1.4
神奈川県		715 100.0	40 5.6	30 4.2	2 0.3	8 1.1	6 0.8	9 1.3
愛知県		567 100.0	21 3.7	20 3.5	7 1.2	3 0.5	6 1.1	8 1.4
大阪府		677 100.0	28 4.1	22 3.2	9 1.3	7 1.0	10 1.5	9 1.3
兵庫県		422 100.0	17 4.0	12 2.8	16 3.8	6 1.4	10 2.4	10 2.2

※問10の回答者数は、問8で、普段の買物で食品の生産地を気にする理由として「放

放射性物質の含まれていない食品を買いたいから」と回答した 483 名

(4) 放射性物質に対するリスクの捉え方 (問 12 性別・年代・居住地域別)

基準値以内であれば受け入れられると回答した人の割合は50代、60代が高く、また、居住地域別では岩手県が最も大きく、愛知県が最も小さかった。

		n	基準値以内であれば受け入れられる可能性があり、受け入れられない	基準値以内であれば、他の発がん要因（喫煙、過度の飲酒、塩分摂取など）と比べてもリスクは低く、現在の検査体制の下で流通している食品であれば受け入れられる	放射性物質以外の要因でもがんは発生する	十分な情報がないため、リスクを考えられない	その他
全体		5176 100.0	573 11.1	1864 36.0	1124 21.7	1572 30.4	43 0.8
性別	男性	2607 100.0	262 10.0	874 33.5	591 22.7	860 33.0	20 0.8
	女性	2569 100.0	311 12.1	990 38.5	533 20.7	712 27.7	23 0.9
年代	20代	853 100.0	88 10.3	257 30.1	177 20.8	327 38.3	4 0.5
	30代	1121 100.0	141 12.6	352 31.4	235 21.0	389 34.7	4 0.4
	40代	1148 100.0	149 13.0	392 34.1	252 22.0	341 29.7	14 1.2
	50代	948 100.0	94 9.9	385 40.6	203 21.4	255 26.9	11 1.2
	60代	1106 100.0	101 9.1	478 43.2	257 23.2	260 23.5	10 0.9
居住地	岩手県	100 100.0	8 8.0	46 46.0	26 26.0	20 20.0	0 0.0
	宮城県	179 100.0	12 6.7	65 36.3	42 23.5	58 32.4	2 1.1
	福島県	144 100.0	11 7.6	65 45.1	36 25.0	28 19.4	4 2.8
	茨城県	230 100.0	27 11.7	93 40.4	48 20.9	60 26.1	2 0.9
	埼玉県	572 100.0	71 12.4	200 35.0	133 23.3	164 28.7	4 0.7
	千葉県	490 100.0	59 12.0	168 34.3	122 24.9	134 27.3	7 1.4
	東京都	1080 100.0	130 12.0	391 36.2	254 23.5	297 27.5	8 0.7
	神奈川県	715 100.0	76 10.6	266 37.2	131 18.3	240 33.6	2 0.3
	愛知県	567 100.0	62 10.9	186 32.8	111 19.6	203 35.8	5 0.9
	大阪府	677 100.0	69 10.2	237 35.0	140 20.7	226 33.4	5 0.7
	兵庫県	422 100.0	48 11.4	147 34.8	81 19.2	142 33.6	4 0.9